

# 「軍縮地球市民」休刊のご挨拶

明治大学軍縮平和研究所長 福田 邦夫

『軍縮地球市民』は、本号をもって休刊することになりました。これまで多大なご支援、ご助力をいただきましたこと、心からお礼申し上げます。

私たち明治大学軍縮平和研究所は、これまで本誌の編集に全力を傾注してまいりました。しかし、今後、本誌継続が困難な状況に直面し、休刊することを決定いたしました。大変残念ではありますが、本誌に声援を送りつづけていただきました購読者の皆様に対して、深くお詫び申し上げます。

今日、日本および世界の状況はますます混沌とし、それに併行するごとく、地球を包む環境は日々、悪化の一途を辿っています。こうしたなか、故宇都宮徳馬先生は、1980年7月に私財を投じて宇都宮軍縮平和研究室を設立し、同年10月から月刊『軍縮問題資料』を刊行されました。

「核兵器に殺されるよりも、核兵器に反対して殺されるほうを、わたしは選ぶ」

これが同先生の政治生命を賭した、一貫した叫びであり、政治指針でした。爾来、先生が他界された2000年7月以降も月刊『軍縮問題資料』は発行されつづけられました。03年7月、先生のご長男、宇都宮恭三(株)ミノファージェン製薬社長より明治大学に故宇都宮徳馬先生の遺志を継承し平和研究所を設立して欲しい旨の申し出がありました。

この志を受け継ぐべく、05年4月、明治大学軍縮平和研究所が設立され、同年6月から本号に至るまでの3年間、(株)ミノファージェン製薬の財政的支援を仰いで12号(臨時増刊を含む)の季刊『軍縮地球市民』を発行することができました。また軍縮と平和構築に関する研究グループを組織し、その成果を公表するための『徳馬双書』を刊行する他、昨年開催した南京事件70周年国際シンポジウム、原爆映画祭等、数多くのイベントを開催することができました。さらに今後の世界の担い手である学生を対象にした総合講座(学内共通講座)「平和構築の社会科学」も正規カリキュラムとして新設しました。本講座は今後も継続されます。

今般、季刊『軍縮地球市民』は、休刊のやむなきに至りましたが、明治大学軍縮平和研究所に課せられている課題は多くあります。今後とも明治大学軍縮平和研究所は、この課題を担っていくことといたします。運営委員、編集委員一同、それらの使命を自覚し、従来以上の活動に取り組みますので、今後とも、ご支援、ご助力賜りますようお願い申し上げます。

最後に、購読者、執筆者ならびに宇都宮恭三社長をはじめ関係者各位に御礼申し上げ、休刊のご挨拶といたします。